

熊本子ども囲碁便り

No.5 2012.5.7

発行：熊本子ども囲碁普及会

託麻囲碁クラブ内 096-382-0174

第二回交流大会39名参加！！



4月15日（日）第二回交流大会が託麻囲碁クラブにて開催されました。4局の対局終了後は、サンドウィッチを食べながら顔なじみになった他の教室の友達と楽しく交流しました。別室では保護者対象に入門教室、指導碁も行われ好評でした。

今回は「大劇長嶺店」のご協力をいただき、駐車場の件でも問題なく進行することができました。駐車場・受付・昼食のお世話などいただきました保護者の方々、大劇長嶺店さまに感謝申し上げます。

次回は7月を予定しています。

全勝者・・・芦田華（3級）・伊藤瑞輝（10級）
清田さつき（12級）・諏訪免美久（14級）
上野隼太郎（15級）・水谷勇斗（16級）・松本大輝（20級）

各教室からの挨拶

囲碁教室「阿蘇一碁一会」・ヒカルの碁スクール「阿蘇」

（阿蘇市一の宮町宮地 6273 番地 6 050-3481-7045 代表 藤崎幸次郎）

皆さんこんにちは(*^_^*)ようやく温かくなりましたね。

こちら阿蘇では、まもなく仙酔峡のミヤマキリシマが見ごろを迎える、季節になりました。

通信教室では、一人が中3になり受験の為に、二人が中1になり部活や勉強が忙しくなるという事で退会しました。

少し寂しくなりましたが、少数精鋭で頑張ります。生徒の一人で、新中学2年生の宮脇優太君ですが、半年ほど前から急速に実力をつけ、最近が一番手直りで私が、互先から2目の間を行ったりきたりで、なかなか白を持たせてもらえません。私も、少し棋力が落ちてきたのかと自信をなくしていた所、先日行われた大分県朝日アマ名人戦で、県の第一人者のM氏を破り、3位に入賞したと聞き、驚きました。

私が、ボケたのではなく、やはり優太君が強くなっていったという事で安心しました。

でも、安心ばかりしてはいけません。私も頑張らないといけません。

その優太君を2子で破り、先で挑戦した小4の陽光君も最近急速に強くなって来たので、今年の活躍が期待でき、楽しみです(^^)

話は変わりますが先日、熊日の肥後本因坊戦阿蘇予選があり、市役所の畠中君を誘って一緒に参加してきました。

一緒に車に乗せていくと、よくトーナメントで当たると言うジックスがあって、今回も2回戦で当たってしまいました。

これまで3連敗ですから、何とか一矢報いたいと頑張りましたが、ダメでした。

今度、粉碎された棋譜が載りますのでご覧下さい。

最後に、退会した中1の勇毅君とお母さん、それから中3の夏菜子ちゃんからお便りを頂きましたので、ご紹介致します。

藤崎先生へ

僕が一碁一会に通い始めた時は、5年生の時でした。

一碁一会に通い始めた当初は、18級で先生に17子くらい置かせてもらっていて、

今ではものすごいようだな！！と思ったりもしています。

今まで短い間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

勇毅

藤崎先生

いつもお世話になっております。藤崎先生に囲碁を習うようになり、

囲碁が楽しかったようです。

囲碁を通して、落ち着きのある子に成長しました。とても感謝しています。

ありがとうございました。

お母さん

約5年間、ありがとうございました。

最後のほうはあまり参加できなくて、申し訳なかったです。

まだいろいろ決まっていますが、とにかく勉強がんばります！

高校に行けて、もし時間ができたら、ぜひまた参加したいと思います。

そのときはよろしく願います。

本当にお世話になりました！！

夏菜子



「ヒカルの碁スクール」「阿蘇」インターネット通信教室」生徒募集中！

特徴

- 1、教室まで通わなくて良い。
- 2、お互いで多面打ちが出来る。
- 3、検討が簡単に出来る。
- 4、スカイプで質疑応答が出来る。
- 5、月謝が安い。(月8～10回で2000円)

ご質問、お申し込みはメールで！

メールアドレス itigoitie@aso.ne.jp

ホームページ <http://plaza.rakuten.co.jp/igotti/>

熊本母と子の囲碁教室

(熊本市下江津 3-4-7 TEL096-370-2263 江藤 由久子)

子ども囲碁普及シリーズ第二弾 <<子ども囲碁指導員の育成>>

現状認識は、未だ道遠し。

県内各地、指導者を求めて探し求めたが、現状は厳しいものであった。そこで以下に指導者育成の私見を述べる。

- ① 囲碁の楽しみ、喜びを教えられる人
- ② 熱意、創意、誠意のある人 (成功する条件)
- ③ 「百聞は一見に如かず」既に成功している子ども教室の指導者の所に見学、視察ツアーを実施する。
- ④ 県内各地の囲碁愛好者の情報を数多く入手する

上記の人たちに囲碁普及指導のネットワークを地道に広げていく。それが結論です。

特に、第一線を退かれた団塊の世代の人で社会貢献活動をしたいと思っている人に協力を求めていきたい。

日本棋院玉名支部初心者教室

(玉名市岩崎 154-1 TEL0968-74-4968 担当 隈部敏)

“子ども囲碁教室の交流大会に参加して思ったこと”

玉名教室の子どもたちは、対外の子供達と対戦することはほとんどない。教室を担当している者としては、機会があったら参加させたいと常々考えていた。教室で呼びかけたところ3名の希望があった。

大劇長嶺店の駐車場の広さにビックリ！1台置いて会場に行った。託麻囲碁クラブへ行くのは二回目だが、道路が狭くてくねくねしていたので、途中、対向車と出会ったらどうしようと・・・ハラハラだったが、対向車もなく会場に着いた。皆さんから暖かく出迎えていただいた。広い専用の囲碁教室、設備の整った会場を見て子どもと保護者は羨ましい感じだった。

他の教室の子ども達は会場に着くなり対局開始！・・・その姿勢に・・・玉名教室もそうありたいな・・・と思った。

参加者40名、その多さに驚いた。渡辺先生の挨拶後、対戦開始。引率してきた子ども達の対戦を中心に観戦した。結果は、中学生が2勝2敗、小学生2名は全敗だったが、いい勉強になったのではないだろうか。

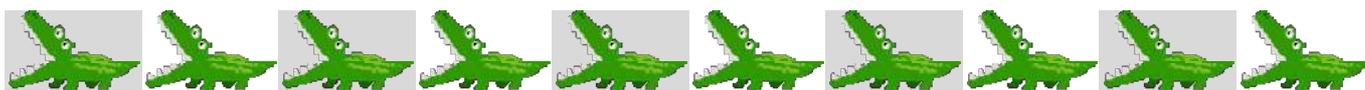
私も勉強になった。玉名教室の生徒は、布石の段階ではあまり差がないと思うが、石が接触してくると、自分のどの石が弱い(危ない)のか、どこに欠陥があるのか、切られたら困るところはないのかなど分からない。また、相手の石は、どれが弱いか、どの石を攻めたらいいのか、どこを切ったらいいのか、どこに打ち込んだらいいのか・・・わからない。しかし、他の教室の子ども達は、それらのことが分かっている、きちんと対処してくるので一挙に形勢がわるくなる・・・そのような対戦であった。

私もそうであるが、相手の石を取ろう取ろうという気持ちが強く出て、自分の欠陥に気がつかないでいる。そのような点の指導が必要だと感じた。

大会の運営の仕方も勉強になった。40名の参加者が約2時間で4局対戦、長引いている対局では、どちらが形勢がいいのかお互いに納得させて終局に導いていく。その指導に感心した。

昼食の時間に、別室で引率の保護者の方々が、託麻囲碁クラブの先生から指導を受けていたので覗いてみた。その先生の指導のうまさに感心！あのような指導を受けたら万年初段から脱出するのにと考えた。

勉強になった子ども囲碁大会だった。



RKKカルチャーセンター子ども囲碁講座

(熊本市長嶺南 3-9-1 RKKカルチャーセンター TEL096-383-3900 囲碁講師 藤森常生)

注目の松本大輝(ひろき)君について紹介します。

彼は、先日行われました「第二回交流囲碁大会」に初めて参加しました。なぜ“注目”かということ大会の前日、つまり3月14日(土曜日)に当教室に初めて参加。その場である日の大会に出場すると言ったのです。

あくる日の大会では全勝！！皆、昨日初めて習った子どもが全勝と不思議がり、注目をあびました。

後日、全勝の訳がわかりました。囲碁はお爺ちゃんから習ったことがあり、長嶺小学校では「将棋・囲碁クラブ」(部員20数人の中に将棋は多いが囲碁は2~3人)に入って9路盤で友達と打っていたそうです。それにしても、囲碁の言葉(ハネ、ツギ、アタリ、シチョウ、ノゾキなど)をよく知っているの、聞いてみると入門書をよく読んでいます。先日は教室の講座が始まる前に、大盤(19路盤)で1人碁を最後まで打っていたのには驚きました。今度の少年少女にも参加しますので、楽しみです。

佐土原子ども教室

(熊本市佐土原1丁目10-1 TEL096-367-1707 渡辺利男)



教室の庭には樹齢50年の桜の大木があります

4月初めの日、満開の桜の下で生徒、保護者約30人で花見の会を開きました。

バーベキューに舌づつみを打ちながら、親同士の交流も深まりましたが、満腹になった生徒たちがすぐに教室で碁盤を囲んでいるのは嬉しい光景でした。

5月22日のTOTO杯では当教室から7人出場しましたが、Cクラス(6~9級)の部で2人が県代表になりました。

他の生徒にも良い刺激になってくれればいいなと思っています。

当面の目標は5月13日の熊日主催の少年少女囲碁大会で全員参加をめざして三番手直りで腕を磨いています。

熊本チビッコ碁友会(託麻囲碁クラブ)

(熊本市保田窪5丁目9-23 TEL096-382-0174 西山育子・田中信夫)

当碁友会では、私が入門・初級者(幼稚園・低学年)を担当。田中先生が上級・有段者を担当しています。同じ幼稚園に通っていた女の子が二人います。この二人は始めた時期も違うので、棋力も違いますが、とても仲良し!家も教室から遠いので車でないと来られません。お母さま方は話し合っどどちらかが二人を載せてこられることもあります。この二人には、まず「囲碁の楽しさ」「通ってくる楽しさ」を感じてもらうことを目標に教えてきました。教室で胸につける名前札には女の子が好きそうな可愛いシールを準備したら、二人とも喜んで何枚も貼りつけていました。

この仲良し二人もこの春から小学一年生です。違う小学校に通う二人は、入学当初休みがちでしたが、幼稚園と違い、早い時間に登校し、新しい友達との新しい生活、きっと疲れているのだろうなと思っていたら、入学後、数日して同じ時期から再び教室にやってきました。

ウン?と二人に感じて・・・一人は、長い髪の毛をバツサリと短くし、もう一人は今まで可愛いリボンをつけていたのに、黒いゴムで一つにくくっているだけ。

学校では、きっと今までのように大きなリボンをつけたりカチューシャをつけたりすることはできないのでしょう。でも、そのことに不満の様子もありません。急にお姉さんになったように思われました。

もちろん、現在も学校が終わり次第お母さんが送ってこられます。私は、今までと違って短い時間に充実した内容にしたいと、二人に休憩は短くして早く終わるようにしようね、と話しました。それでも、いままでにない光景がみられます。あくびなどしたことがなかったのに、時々あくびがみられます。きっと疲れているのでしょう。その時は、さっと終わるようにしています。

この先、授業で水泳が始まると、子ども達が決まってあくびを出し始めます。それでも頑張って通ってきてくれるので、囲碁を嫌いにならないように工夫したいと思っています。(記 西山)

人吉球磨支部子ども囲碁教室

(人吉市西間上町 2569-2 みのだ内科循環器科内 0966-28-3111 理事 金枝雄治)

「県民囲碁まつり」に参加して

3月25日に行われた県民囲碁まつりに参加しました。去年までのマンモス支部対抗戦が「熊本県民囲碁グループ大会」に変わりましたが、試合形式は同じです。県内の色々な団体が参加出来るようになり、去年より多くのチームが参加しました。子どもや女性の参加も多く、県の囲碁の拡大に寄与していると感じました。しかし、まだ熊本市内のチームが多く、熊本市以外のチームの参加を期待したいと思います。

人吉・球磨支部は、2チーム6名が参加しました。最年長は大山さん80歳で、最年少は高校一年の上村君です。蓑田支部長も参加しました。試合は棋力の高い順に組分けされますが、人吉・球磨支部Aは2組、Bは6組とレベルの高いグループに属しました。苦戦が予想されましたが、A、Bチームとも2勝1敗の成績で満足できる結果でした。個人的にも最年長の大山さんが全勝でした。このような大会で碁を打つことは、日頃の仲間だけの碁と違って良い緊張感があります。今後も対外試合に積極的に対外試合に参加したいと思います。

富山県からのうれしいお便り

みなさんこんにちは。私は江藤さんと学生時代、囲碁で一緒に青春を過ごした富山の広田と申します。

2年前、30数年ぶりで再会して以来、昨年は広島にてジュニア交流を実現したり、またネット対局するなど楽しく交流をさせていただきとても感謝しています。

富山では「学校に囲碁」「家庭で囲碁」「友人たちと囲碁」をキャッチフレーズにして、ほぼ毎月のように「ジュニア&パパママ大会=今年からフレンズ碁に名称を変更」や親子中心の「春・秋の囲碁の集い」を開催したり、あるいは若年世代の囲碁サークルの活動の推進など、若い方々への囲碁の普及に取り組んでいます。

ジュニア層だけでなく、パパママ世代にも囲碁を普及したい。これには深いわけがあります^^。ご父兄たちも子どもと一緒に覚えて対局が出来るようになると、子どもが何を考えているか、上達することの難しさ、勝つとはなんと大変なことか、これまで以上に子どもの気持ちが分かることでしょうね。

そして勝敗を競うだけではない、囲碁の色々な魅力を肌で感じていただくことで、その結果、子ども達へのサポートも手厚くなる。何より新しい囲碁仲間が増え、ご自身の生涯の趣味になれば最高!と読んでいるのですが、あながち勝手読みではないと期待している次第です。そこでどうかすると、子ども達よりご父兄たちへの指導に力が入ることもしばしばですよ^^。

これからの季節、各小学校では「PTA親子活動」「児童クラブ」「総合学習」何をするかそれぞれ検討されるようです。

「親子囲碁教室」が実現できるといいですね。本当に素晴らしい光景に出会えますからね。こちらでもなるべく多くの学校で出来るよう頑張ります^^。

御地とは距離は近くないので、皆さんとは簡単には会えませんが、いつかはお邪魔出来る日が実現できればと夢を見ています。

そこで、当面はジュニアやパパママ世代のネット対局（こちらではネットで囲碁を楽しまれるお母さん、お父さんたちは多いですよ^^棋力の幅も20級～有段者までバラエティに富んでいます）での交流を企画いたしませんか。10数人ずつくらいの団体戦が実現すると楽しそうですね。もちろん勝敗は二の次、三の次いや碁の次（^^くらいでしょう。大人同士は会話での交流が一番ですから。

富山の囲碁のイベントはHP「このごろの下島七段」（日本棋院のHPからでもご覧になれます）に順次紹介いたしております。ご笑覧いただければ幸いです。

では、みなさまのご活躍をこのお便りで拝見することを楽しみにしております。これからもどうぞよろしくお願いたします。

日本棋院富山県支部連合会 会長 広田 徹

☆熊本から離れた遠いところでも囲碁普及を頑張っている仲間がいて、囲碁を楽しんでいる仲間がいることを心強く思います。富山の友だちとネット対局を希望する方は教室の先生に申し出て下さい。今年の高校総文全国大会は富山県が開催地です。囲碁部門の代表もこの夏、富山に行くことになります。その時は、ぜひ日本棋院富山県支部連合会の方々とも交流してきて下さい。お便りありがとうございました。

お知らせ



★ 祐徳本因坊戦熊本県予選が4月15日（日）日本棋院熊本県本部にて開催されました。

代表 **小学生の部 森美咲希（玉名町小6年）**

中学生の部 橋本淳平（湖東中3年）

代表の二人は6月2、3日に佐賀県鹿島市の祐徳稲荷で開かれる九州・山口・沖縄の代表と対戦します。

★ TOTO杯ジュニア囲碁大会県予選が4月22日（日）県本部にて開催され、それぞれのパートで熱戦が繰り広げられました。パート別代表は下記の通り（本戦は8月北九州市にて開催）

無差別の部	橋本淳平	（湖東中 3年）	田中一成	（真和高 2年）
Aクラス	田中一光	（出水中 2年）	坂本晃平	（真和高 2年）
Bクラス	坂口恵一	（真和高 2年）	植田 恵	（真和中 1年）
Cクラス	伊藤瑞輝	（東町中 1年）	矢根凜>花	（第二高 1年）
Dクラス	水谷勇斗	（西原小 4年）	太田さくら	（玉名町小3年）

編集後記

第二回交流大会では、子ども達の交流ができてよかったと感じました。どうして子どもはこんなにすぐに仲良くなれるのだろうかと思ふほどです。学校は違ってもこのまま囲碁を通じて友情が深まっていくことなのでしょう。私にも他の教室の子どもが抱きついてくれたりして、回を重ねるごとに皆が親しくなっていくのがとても嬉しく感じます。（西山）

社説：名人と本因坊 400年の節目に親しまう

毎日新聞 2012年04月06日 02時30分

将棋の第70期名人戦七番勝負が10日から始まる。また、5月15日からは囲碁の第67期本因坊戦七番勝負がスタート。今年初代名人の大橋宗桂と初代本因坊算砂が江戸幕府から俸禄（ほうろく）を受け始めて400年の節目だ。二つの伝統文化は、女性の活躍や国際化など話題も豊富だ。

将棋も囲碁も、古代に日本に伝わり、発展してきたと考えられる。特に熱心だったのは徳川家康だった。多くの棋士を召し抱え、京都から江戸に移動させた。家康は将棋、囲碁衆の保護や育成に努め、1612年には扶持（ふち）を与えた。この時から幕府公認の遊芸になったわけだ。

宗桂や算砂はそれぞれ家元の元祖となり、名人も本因坊も世襲制になった。実力制になったのは昭和に入ってからで、毎日新聞

社が名人戦、本因坊戦を創設し、棋界のトップの称号として歴史を刻んできた。

将棋のタイトル戦は現在、七つあるが、名人以外のタイトルは、理論的にはプロ棋士になつたばかりの新四段でも挑戦することができ。しかし、名人戦は最短でも5年かけて五つの級でリーグ戦を勝ち抜かないと挑戦者になれない。この重厚なシステムが、名人という称号に独特な輝きを与えている。今年森内俊之名人（41）に羽生善治王位（41）が挑戦する。鉄壁の防御と強いカウンター攻撃で知られる森内名人。オールラウンドプレーヤーで、通算タイトル獲得を前人未到の81期に更新することが期待される羽生王位。切磋琢磨（せつさたくま）してきた宿命のライバルの勝負が期待される。

最近の将棋界の話題は、若い女性たちの活躍だ。鋭い指し方から「出雲のイナズマ」と呼ばれる里見香奈女流名人（20）が現在の規定では女性として初めて奨励会の初段になった。後に続く若い女性も台頭している。男女差がある将棋だが、彼女たちの

活躍はファンを増やすきっかけにもなりそうだ。

一方、本因坊道吾（どうわ）（33）山下敬吾九段Ⅱに挑戦するのは若手ナンバーワンの井山裕太天元（22）に決まった。パワフルな攻撃が持ち味の本因坊に対して、変幻自在の構えを見せる天元。世代間対決としても楽しみみな七番勝負だ。

囲碁人口は世界で4000万人といわれる。かつては日本がトップに君臨していたが、近年は中国と韓国の後塵（こうじん）を拝している。囲碁のさらなる普及のためにも、国際棋戦での活躍が期待される。

将棋も囲碁も、礼儀を学び、コミュニケーション能力を高め、論理的思考を養うとして、教育への効果が注目されている。長い伝統を誇る頭脳のゲームをすることは人生の妙味でもあるだろう。老若男女を問わず、盤上の勝負を楽しみたい。

囲碁、論理の教師 東大・早慶・

青学……人気の授業

朝日新聞2012年4月25日

東京大や早稲田大、慶応大などに続き、青山学院大でも囲碁の授業が始まった。日本棋院のプロ棋士を講師に、対局を通して、卒業後に役立つ論理的思考を養うのが狙いだ。4月から囲碁担当になった記者も、学生に交じって聞いてみた。

「囲碁は、陣地（地へじ）を多く囲ったほうが勝ち。地は『1目（もく）、2目』と数えます」

18日、青山学院大青山キャンパス（東京都渋谷区）で本格的に始まった「囲碁で養うロジカルシンキング」の授業。囲碁初心者学生48人が参加した。

囲碁授業は、東大や早稲田大でもおこなわれてきた。同大では、全学共通教養教育にあたる「青山スタンダード」内に、就業力の育成を目指す領域を設けてキャリアに関する科目をまとめており、本講座はそのひとつだ。

講師の桑原陽子六段はにこやかに講義を進めるが、記者は「陣地を囲う」というイメージがわかず、いきなりつまずく。黒板に貼られた決着がついた盤の図には、まだ空いている部分がある。「これで勝負がついてるの？」と疑問がわいてきた。

基本の五つのルールを学び、まずは、相手の石を先に2個取ったほうが勝ちという石取りゲームに挑戦する。6×6の小さな「6路盤」（図のへじ）で使用する。囲碁ワールドの入り口を体験させてくれた。

しかし、地の数を競う「囲碁」に移った途端、何かが違う。学生同士の対局は、黒白が市松模様風に並んでいた。オセロのように石が盤にぎっしり並んでいたり。ルールが少なくても、適当に並べては「囲碁の形」にはならないようだ。

そこに「ここに打たれたら、自陣に入り込まれないよう、こちらに打って防ぎましょう。陣地を守ることを意識して」のアドバイス。すると、それらしい形になってくるから不思議だ。

「これって、勝ってるんですか？」。学生から質問が出る。「白はもうどう頑張っても巻き返せない。だから黒の勝ちですね」。囲碁は、王を詰ませば勝ちという将棋のような初心者にも分かりやすい終わり方ではないという。「自分が納得できるところまで打ち、お互い打つところがないと宣言すれば終わりです」と桑原六段。終局するにも、自分の地がどこかを理解する訓練がまず必要だ。

授業ではこんな言葉も出た。「逃げてもだめなときは、取られる石が少ないうちにあきらめて、他の地をねらう」「全体の状況を見るのは大事だけど、今の黒は危ない。そういうときは、まず戦うのが先」

3年の鈴木直人さん（20）は「守ったり攻めたりするのが面白かった！」と次回授業を心待ちにする。元ゲーマーの記者も同感。戦略シミュレーションゲームを連想し、盛りあがった。

3年の福島潔美（きよみ）さん（21）は「聞くだけの講義が多い中、考える時間が楽しい」と言った。大学側は「対局で培われる先を読む力を通し、専門科目で学べるのとは違う思考パターンが得られるのではと期待している」。勝ち負けを経験していない学生に、ルールがある中での「負け」を経験してほしいという思いもあるという。

桑原六段は「囲碁に『正解』はない。だから決断する力、選んだ道に責任を持つ力がつく」と話した。（鈴木綾子）

■埼玉・琉球大でも

囲碁関連の授業は今年度、埼玉大でも「スポーツで養う思考力」が始まった。囲碁とサッカーをテーマに判断力や分析力、洞察力などを養うのが目的。酒井真樹八段が囲碁を指導する。

また琉球大は8月下旬、プロ棋士による「囲碁の世界」を5日連続の集中講義で開講する。

両記事ともインターネットより転記しました。朝日新聞には写真や囲碁ルールの図がありました。省略しています。